

環境報告書 2025



Creation&Harmony



SK-Electronics CO., LTD.

「自然との調和」 *Harmony*



コンテンツ

ごあいさつ	02	社内環境活動	05
環境への取り組み	02	社会貢献活動	06
環境活動の歩み	03	環境保全活動	07
環境管理組織	03	今後の取り組み	07
環境マネジメントへの具体的取り組み	04	会社概要	07

編集方針

この「環境報告書」は、当社が地域社会の一員として環境保護の責任を担い、これまで取り組んでまいりました環境保全活動ならびに社会貢献活動の内容や成果をご紹介しますことで、当社の「環境」に対する考え方を皆様にご理解いただくことを目的に作成いたしました。

ごあいさつ

エスケーエレクトロニクスは「創造と調和」を経営理念としています。「創造」とは常に積極的に新しい価値創造に励み、社会の求めるより良い製品をご提供するという意味です。

「調和」とは、社会との調和、自然との調和、そして人との調和を大切にした企業活動により社会的責任を果たすという意味が込められています。

この経営理念に基づき、当社の環境理念である「常に自然の恵みを大切にし、企業活動を通じて環境改善に取り組み、自然との調和を実現します。」を策定いたしました。

地球の限りある資源のもとに事業活動を行う当社は、環境保全や環境負荷低減のために、その事業の成果をもって貢献する責務があり、また環境問題への取り組みは企業価値向上につながる重要な企業活動の一つであると考えています。

今後は、社会の求めるより良い製品をご提供するとともに、地球環境保全や環境負荷低減に貢献し、環境理念である「自然との調和」の実現を目指してまいります。



代表取締役社長

岡崎 祥子

環境への取り組み

当社では、環境経営を実践していくうえで重要なシステムとなる環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証を、2002年に京都工場で、2011年に滋賀工場で取得いたしました。

また、環境理念に基づく8つの環境方針を策定し、掲げた環境目標を達成するために環境管理体制を整備して、社員一人ひとりの環境意識向上に取り組んでまいりました。

地域社会とのコミュニケーションも重要な取り組み課題の一つと考え、事業所周辺の身近な地域社会における環境保全活動ならびに社会貢献活動を地域の方々とともに進めております。

今後は、後ほどご紹介申上げます社内環境活動や社会貢献活動、環境保全活動の継続ならびに充実を図り、当社が果たすべき社会的責務に積極的に取り組んでまいります。

経営理念 「創造と調和」

環境理念 私たちは、経営理念に基づき、常に自然の恵みを大切にし、企業活動を通じて環境改善に取り組み、自然との調和を実現します。

- 環境方針**
1. 地球温暖化防止のため、省資源・省エネルギーに努めます。
 2. 汚染を防止し、循環型社会の形成に貢献(3R※の実践)し、環境保護に努めます。
 3. グリーン調達に取り組み、環境に優しい製品作りに努めます。
 4. 関連する環境法令や規制及び協定等を順守いたします。
 5. 環境教育を実施し、環境意識の向上を図ります。
 6. 社会貢献活動を実施します。
 7. 環境パフォーマンスを向上させるために環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
 8. この方針は社員に周知徹底すると共に、一般にも公開いたします。

※3R…Reduce(廃棄物の排出抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)

環境理念

私たちは、経営理念に基づき、常に自然の恵みを大切にし、企業活動を通じて環境改善に取り組み、自然との調和を実現します。

環境方針

「環境への取り組みはSKE社員の責務である。」を基本姿勢に、当社の事業活動や製品及びサービスによる環境影響を評価し、以下の方針に基づき環境問題に継続的に取り組んでまいります。

1. 地球温暖化防止のため、省資源・省エネルギーに努めます。
2. 汚染を防止し、循環型社会の形成に貢献(3Rの実践)し、環境保護に努めます。
※3R…Reduce(廃棄物の排出抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)
3. グリーン調達に取り組み、環境に優しい製品作りに努めます。
4. 関連する環境法令や規制及び協定等を順守いたします。
5. 環境教育を実施し、環境意識の向上を図ります。
6. 社会貢献活動を実施します。
7. 環境パフォーマンスを向上させるために環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
8. この方針は社員に周知徹底すると共に、一般にも公開いたします。

2024年 10月

株式会社エスケーエレクトロニクス

代表取締役 向田 孝久

システム管理部長 宮川 隆

京都工場地区代表 奥田 裕介

滋賀工場地区代表 水島 隆裕

SK-Electronics CO., LTD.

環境活動の歩み

2001年	10月	株式会社写真化学より分社し、株式会社エスケーエレクトロニクス設立
2002年	9月	京都工場でISO14001認証取得
2005年	5月	本社、京都工場での周辺地域清掃活動スタート
2006年	8月	本社前の戻橋児童公園へベンチ5脚寄贈 京都市より感謝状授与(2006年9月)
2007年	11月	社会福祉法人への支援活動を開始(京都工場)
2008年	6月	京都工場の所在地である久御山町内の幼稚園に「緑のカーテン」を設置
	8月	京都市、NPO法人、企業のハイブリッド組織で「水源の森づくり」活動に参画
	10月	「水源の森づくり」京北町の合併記念の森にて北山杉の第1回間伐作業に参加
2009年	3月	「水源の森づくり」第2回間伐作業に参加
	5月～10月	京都工場近隣2ヶ所の幼稚園に「緑のカーテン」を新たに設置
	7月	京都工場地域環境活動として、「木津川下津屋橋(通称：流れ橋)付近地域清掃」を実施
	11月	本社地域環境活動として、「堀川周辺地域清掃」を実施
		発展途上国の子どもたちにワクチンを贈るため、ペットボトルキャップの収集を開始
		滋賀工場の敷地の一角に農園を設け、野菜の栽培を開始
2010年	2月	関西盲導犬協会への支援活動を開始
	3月	「水源の森づくり」植樹作業に参加
	5月～10月	京都工場近隣3ヶ所の幼稚園に「緑のカーテン」を設置
	10月	滋賀工場にて「ひのきが丘企業会」主催の「環境美化の日」清掃活動へ参加
	11月	「水源の森づくり」京都市右京区鳴滝音戸山にて竹林清掃活動に参加
2011年	5月～10月	京都工場近隣3ヶ所の幼稚園へ「緑のカーテン」を設置
	9月	滋賀工場でISO14001拡張認証取得
2012年	3月	「合併記念の森 記念式典」と「森づくりパートナーによる植樹」に参加
	5月～9月	京都工場近隣3ヶ所の幼稚園へ「緑のカーテン」を設置
2013年	11月	滋賀工場にて「ひのきが丘企業会」主催の「環境美化の日」清掃活動へ参加
2014年	5月～9月	本社近隣の幼稚園に「緑のカーテン」を設置
2016年	4月	滋賀工場地域環境活動として、「琵琶湖外来魚駆除大会」に初参加
	5月～9月	本社近隣の幼稚園に「緑のカーテン」を設置
		各拠点付近で原則年3回の地域清掃等の社会貢献活動の実施
2024年	12月	本社地域環境活動として、「堀川周辺地域清掃」を実施
2025年	5月	京都工場地域環境活動として、「近鉄大久保駅周辺地域清掃」を実施
	9月	滋賀工場地域環境活動として、「琵琶湖外来魚駆除大会」に参加

環境管理組織

- 当社では、社長を最高責任者として環境保全活動に取り組んでいます。
- 社長の命を受けた環境管理担当役員のもと、環境委員会を設置しております。
- 環境委員会で企画、検討を行った取り組みについて、スムーズに実施するために環境委員会は各職場代表で構成しております。
- 社員は環境委員会のもと、環境保全活動に取り組めます。

環境管理組織図



環境マネジメントへの具体的取り組み

環境目標

環境各期計画の実績

第1期 (2001年10月～2004年9月)

第1期は、CO₂削減と廃棄物削減に取り組みました。CO₂削減(売上原単位※)は、2001年9月期の実績値から20%削減の目標としましたが、2004年9月期には、23%の削減を達成しました。

廃棄物削減については、2001年9月期から40%削減の目標としましたが、3年間で51%の削減をすることができました。

※売上原単位…エネルギーの使用量／売上高

第2期 (2004年10月～2007年9月)

第2期の計画は、引き続きCO₂および廃棄物削減に取り組むと共に、水、電力、燃料、排ガス消費の削減を目指しました。

CO₂削減の結果は、2004年9月期の実績に対して15%削減の計画でしたが、新工場建設による設備増加のため、残念ながら2007年9月期には7%増になりました。

しかし廃棄物削減は、2004年9月期から30%削減の目標に対して2007年9月期には90%削減を達成し、大幅な削減となりました。

第3期 (2007年10月～2010年9月)

第3期は4つの目標を立てました。まず、グリーン購入率は目標の95%を目前にして達成することができませんでした。今後は維持管理を行い購入率の推移に変動がないよう取り組んでいくことといたしました。事務用品購入量は、15%削減の目標に対して大きく上回る数字で目標を達成しました。コピー用紙購入量の削減は目標を達成できなかったため、次の3ヵ年計画では再度目標に掲げて削減を推進することといたしました。故紙・ダンボール排出量は、目標に対してわずかにオーバーしましたが、今後は維持管理を行い排出量が増加しないよう取り組むことといたしました。

第4期 (2010年10月～2013年9月)

第4期は具体的施策による残業時間の削減、電子決裁導入などによるコピー用紙の削減、エネルギー使用量削減(原油換算)の3つの目標を掲げました。残業時間の削減については、毎年3%、3年間で9%の削減を目指し、最終的に11%の削減を達成しました。コピー用紙の削減・エネルギー使用量削減については、毎年2%、3年で6%の目標に対し、コピー用紙は電子決裁システムの導入やミスコピーの撲滅活動等により3年間で19%の削減、エネルギー使用量はエレベーター等省電力設備の導入や節電意識の高揚により14%の削減を達成することができました。

第5期 (2013年10月～2016年9月)

第5期は、「改正省エネ法」に対する全社的な取り組みを重点課題として、エネルギー使用量削減(原油換算)を目標に設定しました。その結果は、3ヵ年トータルで3%削減の目標に対して、京都工場は1.9%の削減、滋賀工場は1.3%の削減と、様々な施策を実施したものの目標未達成に終わりました。

第6期～第9期 (2016年10月～2022年9月)

第6期から第9期までは、「エネルギー使用量削減(延床面積原単位)」と国内外で製品への使用が禁止されている化学物質について、当社でも製品へ含有しないよう管理を徹底するため、「有害物質に配慮した製品含有化学物質管理」を継続して目標に掲げております。詳細については、5ページに記載のとおりです。

第10期 (2022年10月～2025年9月)

第10期は「エネルギー使用量削減」の取り組みを継続しつつ、環境目標は「CO₂排出量削減」、「有害物質に配慮した製品含有化学物質管理」として活動いたしました。詳細については5ページに記載のとおりです。

● CO₂排出量削減

当社では環境目標を「エネルギー使用量削減」から「CO₂排出量削減」に変更し、当社の直接排出のみならず、サプライチェーン全体でのCO₂排出量削減を目指して活動を継続しております。

■ SCOPE1,2

2024年9月期のCO₂排出量実績から160t-CO₂の削減を目標とし、生産設備の更新及び効率的運用や事務所における省エネ対策を実施した結果、削減実績は358t-CO₂となりました。

■ SCOPE3

2025年9月期は主要材料等の調達先様に当社納入品にかかるCO₂排出量の削減をお願いいたしました。今後も継続してサプライチェーン全体でのCO₂排出量削減に努めて参ります。

● 有害物質に配慮した製品含有化学物質管理

世界的な流れとして、地球環境への有害物質の影響を低減させることが産業界に求められています。当社でも京都工場・滋賀工場の両工場において、「当社製品への禁止物質含有をゼロ」を目標に掲げ活動を推進しました。調達先様にご協力いただき、新材料・新製品の導入時に、また定期的に禁止物質の含有がないかの確認を徹底することにより、「当社製品への禁止物質含有ゼロ」を昨年に引き続き達成いたしました。

社内環境活動

● 環境講演会

6月は環境月間であることから、環境保全の意識を高めるための活動として各拠点で環境講演会を実施しました。

- ① 本社：『持続可能な開発目標の達成に向けた京都市動物園での取り組みについて』
- ② 京都：『京都府の地産地消について（直売書・催しの紹介含む）』
- ③ 滋賀：『環境保全や持続可能な社会づくり（農業、農村が有する多面的な機能）』

本社では京都市動物園様より持続可能な動物園運営に向けたネットワークについてご紹介いただきました。企業から排出される野菜くずなどを利用したフードロス削減や種の保全に必要な教育や研究などの取り組みを多くの社員が理解する良い機会となったと思います。

京都工場でも外部の講師をお招きし、京都府の地産地消の取り組みについてご紹介いただきました。フードマイレージなど普段あまり意識しないようなところで環境に負荷を与えていることを知り、食の在り方などを考える幅が広がったと感じました。

滋賀工場も同様に外部より講師をお招きし、環境保全や持続可能な社会づくりについてご紹介いただきました。田んぼがもつ役割として洪水防止機能や土壌崩壊防止機能など様々な内容を学びました。また農業従事者が高齢化で減っている事と機械が高額で参入しづらいなどの問題も多く農業そのものの在り方など深く考えさせられる機会となりました。

今後も定期的に講演会を開催し、社員の環境教育を行うとともに、環境に関する取り組みを推進していきたいと思います。



● 「あいとうエコプラザ菜の花館」見学

環境に関する循環サイクルを身近な問題として考える機会とするため、あいとうエコプラザ菜の花館にて研修を実施しました。

この施設の取り組みの説明では琵琶湖を守るせっけん運動から廃油を利用したせっけん作りが始まり、現在の菜の花エコプロジェクトの循環サイクルの取り組みになった経緯を学びました。この菜の花循環サイクルがとてもよくできており、私たちの業務においてもこの様な循環システムを利用できないか考え直す機会となりました。

また研修後に菜種油を購入した社員もあり、地域への貢献と環境意識への変化が起きたと実感できました。今後も外部施設見学を通して活動内容を社内報で紹介し、環境意識の向上などを図っていききたいと思います。



● 滋賀農園

滋賀工場では社内環境活動の一環として、敷地内の畑で野菜を育てています。今年は大根・じゃがいも・人参・ゴーヤ・キュウリなどの野菜の耕作から収穫までを行いました。限りある資源を無駄なく使うなど、環境意識を高めるために社員へ皮ごと食べられる料理などを振舞った結果、大好評でした。今後も野菜を育てる厳しさや食物へのありがたみなどをより身近に感じ、資源の大切さを広めていける活動を考えていきたいと思っています。



社会貢献活動

● エコキャップ運動

社会貢献活動の一環として2009年12月より「エコキャップ運動」を継続しています。この運動はリサイクルの促進、CO₂排出量の削減、またリサイクル過程での雇用創出による障害者・高齢者雇用促進の3つ目的があります。

本社・京都工場・滋賀工場の3拠点へ回収ボックスを設置した結果、2024年10月から2025年9月までに集まったエコキャップは31,942個でした。これにより251.54kgのCO₂が削減できました。今後も引き続き社会貢献の一環として「エコキャップ運動」の取り組みを継続していきます。



● 第16回本社地域環境活動「堀川周辺清掃活動」

本社付近の地域環境活動として毎年「堀川周辺清掃活動」を実施しています。社員とその家族を含め21人の参加者が集まりました。清掃活動は本社ビルから扇町公園を目指すグループと丸太町通りを目指すグループに分かれ、堀川通り沿いの清掃を行いました。ゴミ拾いを行っているとお互に気づきあうことができ、吸い殻や空き缶などのポイ捨てが散見されたものの、例年よりもゴミが少なく道が綺麗になってきていると感じました。約1時間の清掃活動で去年の約半分の10.6kgのゴミを収集しました。今後も清掃活動を通して地域の方々との交流し、環境啓蒙、地域貢献を図っていきたくて考えています。



● 第16回京都工場地域環境活動「近鉄大久保駅周辺清掃活動」

京都工場では、環境保全活動と地域貢献を目的とした「近鉄大久保駅周辺清掃活動」を継続しており、今回で16回目となります。今では毎年の新入社員も参加する恒例のイベントとなっています。今年は、当社の社員やお客様も利用する「近鉄大久保駅」の周辺をきれいにしようと総勢25名の社員が参加しました。

今回は3つのグループに分かれて清掃活動を行い、計5.52kgのゴミを収集しました。昨年と比べるとゴミの量は減少しており、地域の美化意識が向上していると感じました。また沿道の方から感謝の言葉をいただいたこともあり、より各々がやりがいを感じて活動できたと思います。地域の状況を知り、清掃活動を通して一人一人の関心が深まる機会を得られたことを嬉しく思います。

これからも活動内容を工夫して認知を広め環境保全や地域社会への貢献となる活動を継続したいと思っています。

● 第9回滋賀工場地域環境活動「琵琶湖外来魚駆除大会」

琵琶湖の生態系を保全するための活動として、外来魚防除認定を受けている市民団体主催で「外来魚駆除大会」が毎年企画されています。滋賀工場地区の環境イベントとして当社からも有志を募り25名の社員とその家族が参加しました。

去年に続き天候に恵まれ、釣り日和の中での開催となりました。今年は外来魚14匹と亀1匹の釣果にとどまりましたが、固有種も多く釣り上がっており、環境保全活動の成果を実感できる機会となりました。参加者は、昨年度より減少したものの、例年と比較すると多くの社員に参加してもらえたため、楽しみながらできる環境保全活動として認知が高まってきているように感じます。

これからも継続して琵琶湖の保全に向けた活動を行っていきたくてと思っています。



環境保全活動

● 太陽光発電システム

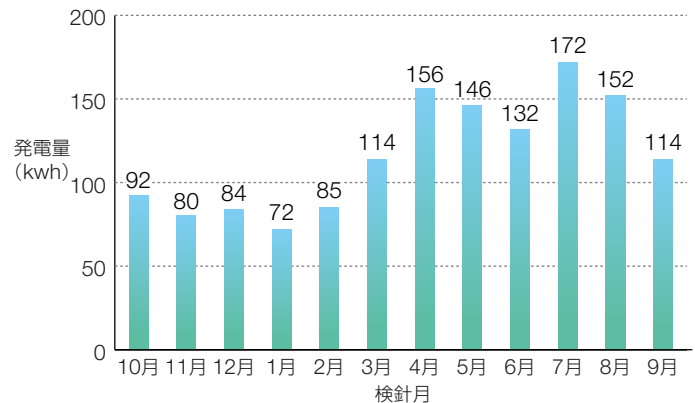
京都工場では、「クリーンエネルギー」である太陽光を利用した太陽光発電システムを導入し、環境保全に貢献しています。今期の発電量は以下のとおりでした。

今期の積算〈2024年10月～2025年9月〉

検針月	月次積算量(kwh)	総積算量(kwh)
10月	92	27,134
11月	80	27,214
12月	84	27,299
1月	72	27,371
2月	85	27,456
3月	114	27,571
4月	156	27,727
5月	146	27,873
6月	132	28,006
7月	172	28,178
8月	152	28,330
9月	114	28,445
合 計	1,399	28,445

※総積算量については、2005年1月からの積算量

太陽光発電積算量(kwh) ■ 月次積算量(kwh)



今後の取り組み

当社は社会が求めるより良い品質で環境に優しい製品を提供するとともに、環境負荷低減や環境保全に貢献し、環境理念である「自然との調和」を実現するために以下の取り組みを実践してまいります。

① 環境マネジメントの実践

具体的な取り組みとして「環境教育」の実践により社員の更なる意識向上を図ってまいります。また、「CO₂排出量削減」の取り組みを加速させサプライチェーン全体でのCO₂排出量削減を目指すとともに「有害物質に配慮した製品含有物質管理」も継続実施してまいります。

② 社会貢献活動の実践

毎週定期的に行っている本社・京都工場周辺の清掃活動は21年目を迎えました。また、本社近辺での堀川周辺地域清掃や京都工場に訪れるときに利用する近鉄大久保駅周辺の地域清掃も実施しています。全社で行なっている「エコキャップ運動」「関西盲導犬協会への支援活動」「フードドライブ」も継続していきます。

地域社会の皆様とコミュニケーションを図りながら、新たな社会貢献活動への参加や、ご要望をいただいている取り組みに積極的にお応えしてまいります。

③ 環境保全活動の実践

滋賀工場を有する当社では環境保全活動の一環として、また生物多様性の保全という観点から、滋賀県の実践活動として、「琵琶湖外来魚駆除大会」に参加し、ブルーギル・ブラックバス等の外来魚駆除を行う活動を2016年から行っています。今後も新しい活動に挑戦することにより、地域に貢献すると共に、社内の輪を広げていきたいと考えております。

会社概要

社 名	株式会社 エスケーエレクトロニクス	SK-Electronics CO., LTD.
設 立	2001年10月1日	
本 社 住 所	〒602-0955 京都市上京区東堀川通り一条上ル堅富田町436番地の2	
事 業 内 容	大型フォトマスク事業	
資 本 金	4,109,722 千円	
従 業 員 数	437名(2025年9月30日現在)	



株式会社 **エスケーエレクトロニクス**
www.sk-el.co.jp

本 社 〒602-0955 京都市上京区東堀川通り一条上ル豎富田町436番地の2
TEL.(075)441-2333(代) FAX.(075)441-4291